

平成28年度第2回青梅市協働事業市民推進委員会議事録

平成28年7月22日
教育委員会会議室

出席委員7人、欠席委員3人

1 委嘱状交付

市民部長より交付

2 あいさつ

川崎委員長あいさつ

3 報告事項

(1) 平成28年度市民提案協働事業審査結果について

事務局より報告

委員：おそきの学校と地域を考える会の事業では、実際に小曾木に住みたい人はいるのか。

事務局：把握はしていない。

委員：以前から継続しているが効果はないか。

事務局：おそきの学校と地域を考える会は、平成27年度は、一般財団法人地域活性化センターの助成金を活用して事業を行い、住宅課と空家対策を行った。

委員：前進はしているかと思う。住んでいる方が他地域に出ていかないことも大事である。

委員：市内と市外の内訳は。

事務局：市内23組、市外20組と報告を受けている

委員：報告会はあるのか

事務局：中間報告と事業報告会を行っている。

委員：障がい者スポーツ推進事業は今後、行政テーマのオリンピック、パラリンピックとして探っていければいい。中間報告までに進められたらいい。

委員：協働してこんな事業を行ったと、職員と団体と一緒に報告会で報告できたらいい。中間報告はプレゼンテーションか。

事務局：報告書を提出してもらっている。中間報告はホームページに掲載をしている。

(2) 平成27年度協働事業の評価について

事務局より報告

委員：課題は意見があったものか、市民活動推進課でまとめたものか。

事務局：評価シートをもとに市民活動推進課でまとめた。

委員長：企画政策課で開催しているぷらっとホームに参加している。フォシリテータの力量が必要である。

事務局：ぷらっとホームは気づきの場である。それを各課で取り組んでいけばいい。フォシリテータを育成中と聞いている。

委員：市民活動推進課で協働事業を把握しているのか。

事務局：毎年、各課に調査を依頼している。報告されていない事業があればこちらから後押しをしている

委員：青梅には多くの協働事業がある。ホームページに出た段階で委員さんを見て、感想をまとめていくのも大事ではないか。

委員長：今年度事業をいくつかピックアップし、実践例を学ぶ場として、市職員と交流を行いたい。

事務局：提案として庁内の協働事業推進会議に諮ることはできる。

委員：以前に開催した市民活動団体と行政の研修会で、お互いに負担はかけていけない。市はお金だけ出せばよいということではない。職員も勉強していることが市民にもわかるといい。

4 その他

委員長：市民活動団体の高齢化対策はどうか。

委員：市役所ロビーで、7月25日～7月29日でボランティア・市民活動紹介展を開催します。今後、図書館でも開催を予定している。問合せが無いわけではないが、時間があわないなどの理由で、うまくつながらない。

委員長：先のことを考えて行っていかなければならない。団体の声を聞くことを意識的に行わなければいけない。

委員：市役所だけでなく各市民センターでも行ってみてはどうか。

事務局：協働事業の紹介は、各市民センターを1ヶ月ずつ回って行っている。今後、考えていきたい。